

教科・種目名 特別の教科 道徳

採択基準	基本観点	発行者名		
		2 東書	11 学図	17 教出
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>本冊の巻末に、付録「つながる 広がる」のページがある。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>付録「つながる 広がる」は、1、2年生では道徳の学習で考えたことを生かす内容になっており、3～6年生では郷土や日本の良さなどを取り扱い、地域社会への理解を図るよう工夫している。</p> <p>本編の最後に、「学習の振り返り」をさせるページがあり、学習の記録と学期ごとの振り返りができるように工夫している。</p>	<p>本冊と別冊「活動」によって構成されている。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>別冊「活動」は、本冊の教材について考えを深めたり、考えを生かしたりする発問などで構成されている。</p> <p>別冊「活動」の巻末に、「保護者の方へ」というページがあり、家庭との連携を図るよう工夫している。</p>	<p>本冊において本編の他に、補充教材を用意している。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>2時間で扱ってもよい教材が4～5つあり、1時間で扱った場合のために補充教材を配置している。</p> <p>本冊の巻末で、1年間の学習の振り返りができるように工夫している。</p>
	別表1			
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	<p>1つの教材につき、1つの自己を振り返る発問を設定している。</p> <p>3年生以上では、自己を振り返る発問の他に、教材の内容そのものについて考えさせる発問も設定している。</p>	<p>別冊「活動」には、教材ごとに、教材の内容そのものについて考えさせる発問1つと自己を振り返る発問1つとを設定している。</p> <p>また、教材内容の発問につながるような活動を促す工夫も取り入れている。</p>	<p>各教材の「学びの手引き」には、3～4つの発問を設け、段階を踏んで話し合いを深めていけるように配慮している。</p> <p>挿絵の台詞を考えるような形式で、自己を振り返り、話し合い学習をするように工夫している。</p>
	別表2			

発行者名				
38 光村	116 日文	208 光文	224 学研	232 あかつき
<p>本冊の巻末に、付録のページがある。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>本編に、読み物とコラムを合わせて学習することができるまとまりを設定している。また、3年生以上で、夏休みや冬休みにおいて家庭や地域での調べ学習につながるコーナーを設けている。</p> <p>学習のまとまりを4つの時期に分け、まとまりごとに「学びの記録」で、視点を明確にした学習の振り返りができるように工夫している。</p>	<p>本冊と別冊「道徳ノート」によって構成されている。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>本冊には、付録の教材を設定しており、本編の教材と入れ替えて学習することができる。</p> <p>別冊「道徳ノート」には、教材ごとの自己評価欄があり、学習の振り返りができるように工夫している。また、保護者記入欄を設け、家庭との連携を図っている。</p>	<p>本冊の巻末に、付録の教材を設定している。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>付録の教材は、本編の教材と入れ替えて学習することができる。また、同じ内容項目について、複数の教材を続けて学習する「重点主題教材」を設定している。</p> <p>本冊の巻末に、「学びの足あと」のページがあり、授業の記録とまとめができるように工夫している。</p>	<p>本冊は、本編のみによって構成されている。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>同じテーマの教材でいくつかの内容項目を配列し、続けて学習することによって考えを深めるまとまりを設定している。また、保護者と連携するページを、各学年1～3箇所設定している。</p> <p>本冊の巻末に、「心の宝物～学びの足あと～」のページがあり、心に残った話などを記録できるように工夫している。</p>	<p>本冊と別冊「道徳ノート」によって構成されている。すべての内容項目を取り扱っている。</p> <p>別冊「道徳ノート」は、本冊の教材順ではなく、内容項目ごとのページで構成されている。</p> <p>別冊「道徳ノート」の巻末に、学習の記録がある。「心のしおり」というシートがあり、チェック欄を通して学校と家庭が連携できるように工夫している。</p>
<p>教材ごとに、3つ程度の発問を設定し、教材の内容やそこから考えられることなどを通して、理解を深める工夫をしている。</p> <p>2年生以上では、さらに自分のこととして捉え、自己を振り返らせるような発問も設定している。</p>	<p>教材ごとに、教材内容について考えさせる発問とそれをもとにして自己を振り返らせる発問を設定している。</p> <p>別冊「道徳ノート」には、友達の考えを書く欄も設定し、より考えを深めるように工夫している。</p>	<p>教材ごとに、教材内容について考えさせる発問とそれをもとにして自己を振り返らせる発問を設定している。</p>	<p>教材ごとに教材内容について考えさせる発問とそれをもとにして自己を振り返らせる発問を設定している。</p>	<p>教材ごとに教材内容について考えさせる発問とそれをもとにして自己を振り返らせる発問を設定している。</p> <p>別冊「道徳ノート」では、いくつかの教材をまとめ、1つの内容項目について自己を振り返る形式をとっている。</p>

教科・種目名 特別の教科 道徳

採択基準	基本観点	発行者名		
		2 東書	11 学図	17 教出
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫  別表3	1・2年生では、教材の冒頭部分に、学習のめあてを明記している。 また、3～6年生では、教材の最後に、考えを深めたり、自分をふり返ったりする発問を設定している。	本冊には、学習のめあてを明記していない。  別冊「活動」では、「かんがえよう」「みつめよう」「アクティブ」などの活動のマークに基づいて、考えを深めたり、自分を見つめたりする工夫を取り入れている。	教材の冒頭部分に学習のめあてを明記している。 最後に「学びの手引き」のコーナーを設定し、考えを深めさせるようにしている。

発行者名				
38 光村	116 日文	208 光文	224 学研	232 あかつき
教材の冒頭部分に学習のめあてを明記している。 最後に「考えよう」のコーナーを設定し、考えを深めさせる工夫を取り入れている。	教材の冒頭部分に、学習のめあてを明記している。 教材の最後に「かんがえてみよう」「みつめよう 生かそう」のコーナーを設定して、考えを深めさせる工夫を取り入れている。  別冊「道徳ノート」には、自分を見つめ考えたことを書き込めるよう工夫している。	教材の冒頭部分に、学習のめあてを明記している。 教材の各ページの下欄にキャラクターの言葉や発問を配置し、読み進めながら考えを深めていくように工夫している。	教材の最後に「かんがえよう」のコーナーを設定して、考えを深めさせる工夫を取り入れている。	教材の最後に「学習の道すじ」と題した「考えよう 話し合おう」のコーナーを設定して、考えを深めさせる工夫を取り入れている。  別冊「道徳ノート」には、教材に関連した発問を設定し、書き込めるように工夫している。

教科・種目名 特別の教科 道徳

採択基準	基本観点	発行者名		
		2 東書	11 学図	17 教出
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<p>2年生以上では、「道徳の学習を進めるために」を初めに提示している。</p> <p>全ての教材について、考える視点を設定している。 1・2年生では初めに、3年生以上では教材の最後に設定している。 また、「考えるステップ」の欄を設けている教材もある。</p> <p>目次に、「出会う・ふれ合う」「つながる・広がる」「問題を見つけて考える」「いじめのないせかいへ」のマークを付け、明示している。</p>	<p>「道徳の学習を始めよう」を初めに提示している。</p> <p>別冊「活動」には、考える視点を明記し、自己を振り返る欄を設定し、考えを深めることができるように配慮している。 また、項目ごとにコラム欄を設けるなど、学習したことを深めることにつなげる工夫をしている。</p> <p>本冊では、教材文の後ろに「読み物コラム」を6点掲載している。 巻末に、学習を振り返るページを設定している。</p>	<p>最初の1時間をオリエンテーションにあて、道徳の時間の学習に対する理解を図っている。</p> <p>全ての教材について、考える視点を「学びの手引き」として設定している。 その中の1つは、必ず自分を振り返る視点となっている。 体験を通して人間としての行動について考えを深める教材には、スキルのマークを付けている。</p> <p>教材文に「ジャンプ」というコーナーを設定し、グループで意見を交流したり、「見つけたよカード」や手紙を書いたり、本を読んだりするなど、学習を広げる活動を紹介している。</p>
	別表4			

発行者名				
38 光村	116 日文	208 光文	224 学研	232 あかつき
<p>「道徳の時間にどのようなことをするのか」が分かる「道徳の時間は」を初めに提示している。</p> <p>教材文の初めの部分には導入として考えられることを、後ろの部分には考える視点「考えよう」を設定している。 また、「つなげよう」では、学習したことを他に広げたり、深めたりすることができるように工夫している。 最後のページに、現代的な問題との関わりや他教科・領域との関わりを表で示している。</p> <p>まなびの記録を書くページを設けている。</p>	<p>道徳の学び方を初めに提示している。</p> <p>教材文では、価値の方向を示す文を初めに提示し、後ろに考える視点を2つ示している。 体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れている教材には、マークを付けている。</p> <p>別冊「道徳ノート」では、友達の意見を書く欄があり、自分の考えと比較することができるように工夫している。 また、自己評価の欄や教材とつなげて考えを深めるページも設けている。</p>	<p>道徳の時間の進め方や本の使い方を初めに提示している。</p> <p>全ての教材で、考えるポイントと同じキャラクターを使って示している。 また、自分の考えをまとめ、広げる視点も示している。</p> <p>同じ内容項目の教材を続けて学習することで、学習内容をより深め、多方向からの学びができるように工夫している。 また、最後には「学びの足あと」のページがあり、評価につなげることができるようにしている。</p>	<p>道徳の時間の進め方を初めに提示している。</p> <p>全ての教材について、考える視点を設定している。 体験を通して、人間としての行動について考えを深める教材には「やってみよう」を、また、学習した後、より深めたり広げたりする教材には「深めよう」「広げよう」のマークを付けている。</p> <p>テーマを設定し、その中で内容項目の異なる教材を続けて学習することで、多面的に物事を捉えることができるよう、教材の組み方を工夫している。</p>	<p>教材文において、1・2年生では2つの考える視点を、3年生以上では「学習の道すじ」として考える視点を提示している。</p> <p>3年生以上では、学習を広げる方向を示している教材がある。</p> <p>別冊「道徳ノート」には、内容項目についての考え方を示している。 また、内容項目ごとにまとめて、以前に学習したときと比べることができるように工夫している。</p>

教科・種目名 特別の教科 道徳

採択基準	基本観点	発行者名		
		2 東書	11 学図	17 教出
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>情報モラルを扱う教材には、目次においてマークを付けている。</p> <p>1年生では、らくがきで悲しむ人のことを、2年生では、ゲームやテレビの話、3年生以上では、インターネットや携帯電話を使うときに気を付けることを取り上げている。</p> <p>現代的な課題については、ボランティアや福祉に関する教育についても取り上げている。</p> <p>いじめ問題への対応教材については、「いじめのない世界へ」と題して、目次においても明示している。</p>	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、「読み物コラム」で内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>「言葉・情報モラル」について考える教材を、本編以外にも、読み物コラムとして2点掲載している。</p> <p>現代的な課題については、いじめ問題への対応をはじめ、健康教育や食育、3年生以上では福祉に関する教育、5・6年生では、伝統文化教育や国際理解教育など、学年が進むにつれて多岐にわたっている。</p> <p>全学年の読み物コラムにオリンピック・パラリンピックに関する教材を設定している。</p>	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>情報モラルについては、目次のところに『情報と正しくつきあおう』の印が付いている。また、体験活動を取り入れて考える教材が載っている。低学年については情報モラルの素地になる教材が書かれている。</p> <p>現代的な課題については、いじめ問題と関連して、全学年で「命を大切にす」「みんなと仲良くする」をテーマとする教材に、目次でマークを付けている。</p> <p>5・6年生では、環境教育も取り上げている。</p>
	別表5			

発行者名				
38 光村	116 日文	208 光文	224 学研	232 あかつき
<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、コラムで取り扱い、教材と合わせて学習できるよう工夫している。</p> <p>情報モラルについては、考える教材として一覧表に明示している。</p> <p>内容については、公共に関するものや礼儀、携帯ゲームなど多岐にわたっている。</p> <p>現代的な課題については、いじめ問題への対応をはじめ、キャリア教育や食育、伝統文化教育、国際理解教育、環境教育、安全教育、福祉に関する教育など、分かりやすく一覧表にまとめている。</p>	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>情報モラルの学習については、目次において明示している。</p> <p>1・2年生では、情報モラルの素地となる教材を、3年生以上では、情報モラルと明記した教材を提示している。</p> <p>教材とつなげて「心のベンチ」(2・3・5・6年)というページを設定し、考えを深める工夫をしている。</p> <p>現代的な課題については、1年生からいじめ問題の対応教材を取り入れ、学年が進むにつれて多岐にわたる教材を組んでいる。</p>	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>情報モラルの学習については、目次において明示している。</p> <p>1～4年生までは、ネットについて、5年生では、著作権について、6年生では、掲示板への書き込みについての学習を取り扱っている。</p> <p>現代的な課題については、いじめ問題への対応をはじめ、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、食育、環境教育、安全教育、福祉に関する教育など、学年が進むにつれて多岐にわたっている。</p> <p>特に、いじめ問題に関連して、身近な例をもとにして考える「みんな仲よし楽しい学校」というページを掲載している。</p>	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>情報モラルの学習については教材文のところに印がついている。スマートフォン、正しい情報、インターネットの使い方、個人情報などについて学習が組み込まれている。</p> <p>現代的な課題については、1年生からいじめ問題の対応や伝統文化教育、国際理解教育の教材を取り入れ、学年が進むにつれて扱う教材数が増えている。</p>	<p>情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。</p> <p>情報モラルの学習については、1・2年生では、情報モラルの素地となる学習を、3年生以上では、巻末に情報モラルの学習を特設している。</p> <p>主にインターネットについての学習が中心で、6年生では、著作権にも触れている。</p> <p>現代的な課題については、いじめ問題への対応をはじめ、伝統文化教育、国際理解教育、防災教育、食育、環境教育、安全教育、福祉に関する教育など、学年が進むにつれて多岐にわたっている。</p>

教科・種目名 特別の教科 道徳

採択基準	基本観点	発行者名		
		2 東書	11 学図	17 教出
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(5) 他の教科等との関連  別表6	付録として「つながる・広がる」という項目を立て、他教科・領域や特別活動と関連させて学びを深めるきっかけとしている。 また、「つながる・広がる」というマークを付けて、他教科・領域や特別活動との関連を目次に明示している。	別冊「活動」にコラムや問題提示、書き込み欄を設定し、他教科・領域や特別活動と関連させて学びを広げたり深めたりすることができるように工夫している。	35 の教材以外にも、「補助教材」として関連する教材を提示している。 また、体験を通して人間としての行動について考えを深める教材には、「スキル」というマークを目次に明示している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫  別表7	多くの挿絵を使い、教材の内容や学習の進め方を説明した上で、教材に入っていくことができる工夫をしている。  固有の人や物については、写真で紹介することにより、教材が理解しやすくなるよう配慮をしている。  児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。	別冊「活動」においては、読み物マークや活動マークにより、学習の内容と進め方がわかりやすく示されている。  1枚の挿絵で、学習内容を端的に表している。  児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 同一教材中に再度使用されている漢字にも振り仮名を付けている。	子ども同士の会話形式で、話し合いのヒントを提示している。  挿絵の吹き出しに入れる言葉を考えるような形式を取り入れて、学習を深める工夫をしている。  児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。
		カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。	カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。	カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。

発行者名				
38 光村	116 日文	208 光文	224 学研	232 あかつき
教材ごとに、関わりのある他教科・領域や特別活動を一覧表にして明示している。 また、「こころん」「きりりん」のキャラクターを用いて、他の学習と関連付けて考えたいことを明示している。	「パソコンやインターネットを使って、さらに学習を深めましょう」というマークを目次に明示している。 また、教材とつなげて考えを深める「心のベンチ」というページに、関連した内容を取り上げている。	35 の教材以外にも、「コラム」として関連する教材を提示している。 また、「広げる」のコーナーの中で、教材に関連してさらに調べる活動を提示している。	教材ごとに、関わりのある他教科・領域や特別活動を一覧表にして明示している。 また、「深めよう」「やってみよう」「広げよう」「つなげよう」のページの中で、教材に関連する教科・領域の情報を提示している。	各教材の最後に「考えよう 話し合おう」という枠を設け、その中の「学習を広げる」項目において、調べ学習のめあてやことわざ・格言、関連する本などを提示したり、身近な生活の中で自分の活動を振り返るよう促したりしている。
コマ漫画風に設定された教材や写真を多く活用した教材などを取り入れるよう配慮している。  「学びの記録」のページにおいては、視覚的に季節感を感じることでできる工夫を凝らしている。	各教材の題名とともに、登場人物の紹介が教材の冒頭に掲載され、教材に入りやすい工夫をしている。	「考えるヒント」を動物や子どものイラストの吹き出しを使って示している。  挿絵を使って、問題やクイズ形式で考えさせる場面を設定している。	大きな挿絵が多くあり、教材に親しみを持つように工夫している。  知識を広げて教材理解を深められるような資料を提示している。	コママンガ風に設定された教材があり、取り組みやすいように工夫している。  知識を広げて教材理解を深められるような資料を提示している。
児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 同一教材中に再度使用されている漢字にも振り仮名を付けている。	児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 同一教材中に再度使用されている漢字にも振り仮名を付けている。	児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 同一教材中に再度使用されている漢字にも振り仮名を付けている。	児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 同一教材中に再度使用されている漢字にも振り仮名を付けている。	児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 同一教材中に再度使用されている漢字にも振り仮名を付けている。
カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。	カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。	カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。	カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。	カラーユニバーサルデザインについて配慮をしている。